

# 海産魚類増養殖試験

仲盛 淳・中村博幸\*1・大嶋洋行・仲本光男

## 1. 目的

沿岸漁業振興のため、本県の亜熱帯海域に生息する増養殖対象種について、種苗生産技術をはじめ増養殖技術体系を確立する。今年度はヒレナガカンパチの採卵及び種苗生産を試みた。

## 2. 材料と方法

親魚は川平湾奥に設置した海面小割り生け簀(5 m×5 m) 2面を使用し、餌料には冷凍のムロアジまたは若イカに養魚用総合ビタミン剤を4%程度添加したものを1日1回、週3~5回飽食するように与え養成した。

平成10年5月19日に採卵を試みるため体重5 kg以上と思われる6個体(性別不明)を陸上水槽に移した。採卵水槽には屋根付き200 kℓ角形水槽を用い水槽上面の排水溝からオーバーフローした海水を採卵槽内に設置した採卵ネット(縦、横、深さが各1 m、ゴース布製)で回収するようにした。親魚は全長と体重を測定した後、ホルモン(HCG、 $T_3$ )を注射し、採卵水槽へ収容した。投与量はHCGで魚体重1 kgに対し750IUとし、 $T_3$ では20mg<sup>1)</sup>を目処に注射した。

## 3. 結果及び考察

採卵水槽に収容した親魚の測定結果を表1に示した。全長は平均で744mm(709~763mm)で、体重は平均6.6kg(5.75~7.21kg)であった。

収容後、採卵は確認されず、5月21日には1尾が死亡した。のこりの個体も体表のスレや遊泳緩慢等の症状が見られたので海上の生け簀に戻したが、その後も2尾が死亡した。これらの死亡は親魚の取扱いが原因と考えられた。

表1 採卵親魚測定結果

	全長 (cm)	体重 (kg)
1	754	7.21
2	756	6.80
3	749	6.71
4	765	6.98
5	735	6.44
6	709	5.75
平均	744	6.60

## 4. 今後の課題

- ・親魚の確保と養成
- ・親魚取扱い技術の向上

## 文 献

- 1) Katunori, Tachihara, Mohanado, Khalil, El-Zibdeh, Atsushi, Ishimatsu, Masatomo, Tagawa (1997): Improved seed Production of Goldstriped Amberjack *Seriola lalandi* under Hatchery Conditions by Injection of Triiodothyronine ( $T_3$ ) to Broodstock fish. Journal of the World Aquaculture society, vol (28), No. 1, 34-44

\* 1 現在の所属：沖縄県水産試験場増殖室